

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○開催目的

人口減少社会においても地域コミュニティが持続し、地域づくりに意欲の持てる地域社会の実現に向け、今後の地域コミュニティの運営や必要な支援制度を考える場として開催しています。持続可能な地域コミュニティの在り方をみんなで方向付けていきます。

○委員（五十音順）

井上 誠	地域づくり塾参加者
江口 千種	福山市PTA 連合会幹事
後藤 健之	地域づくり塾参加者
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
委員長 渡邊 一成	福山市立大学教授 地域連携フェロー
渡邊 千裕	地域づくり塾参加者

○オブザーバー

櫻井 常矢（福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー）
澤 尚幸（福山市政策アドバイザー）

○開催スケジュール

※会議時間はいずれも1時間30分

- 第1回 8月29日（木）19時30分～ 地域活動の負担感を共有，改善策の検討
- 第2回 9月19日（木）19時30分～ 地域支援の在り方の検討
- 第3回 10月28日（月）19時30分～ 地域組織の在り方の検討
- 第4回 11月23日（土・祝）14時～ モデル事業の共有，これからの地域コミュニティの在り方を検討
- 第5回 1月20日（月）19時30分～ 検討委員会の意見をとりまとめ，市長へ報告

※3月頃に「（仮称）これからの地域づくりを考えるシンポジウム」を予定

第1回福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○日時

2019年（令和元年）8月29日（木）19:30～21:00

○会場

福山市役所本庁舎3階 中会議室

○プログラム

- 1 開会
 - ・市長挨拶
 - ・自己紹介
 - ・経過説明
- 2 意見交換（ワークショップ）
 - (1) 地域活動の現状について
 - (2) 地域の負担感について

○市長挨拶（要旨）

車座トークで市内全域を回り、地域活動の素晴らしさとともに、人口減少・少子高齢化に伴う自治会加入率の低下や担い手不足、やらされ感・負担感といった地域活動の悩みや疲労感を伺った。全国の市町が同じように直面し、出口を見出せていないこれらの地域コミュニティについての諸課題を解決するため、昨年度から有識者会議で議論を進め、課題を取りまとめた。本委員会では、課題を踏まえた取組の方向性を議論いただきたい。同時に、2つのモデル学区で現場から課題を直接聞きながら改善に向けた検討を行う。協働のまちづくりを長年続けていくうちに、重層化・複雑化した取組を地域団体の実践者が自ら検証し、見直す作業は簡単な取組ではないが、人口減少時代にあっても意欲をもって地域づくりに取り組んでいただければ、活発な議論と改善に向けた実践の取組をお願いしたい。



○会議内容

- ・ワークショップ形式による意見交換

テーマ	「小学校区ごとの地域活動の現状及び負担感の共有」
目標	「地域の現状を知り、これからの地域と行政の関係性の在り方を考える ～地域がやること、行政がやること～」



①「地域の強み（地域活動の良いところ・続けていきたいところ）」についての主な意見

- ・多くの人と顔見知りになる。
- ・参加する人の元気が良い。
- ・活動に自主的に取り組んでいる。
- ・居場所づくり，拠点ができる。
- ・たくさんの情報を入手し交換できる。
- ・使命感（子どものため，地域のため）をもって取り組んでいる。
- ・地域の協力で地域の歴史遺産の掘り起こしができる。



等



②「地域の弱み（地域活動の「課題」「負担感）」についての主な意見

- ・自治会の回覧物が多い
- ・活動を継続するには，ボランティア，担い手が必要
- ・活動する人の固定化，高齢化
- ・充て職が多い。
- ・行事を実施するときの一人の負担が大きい。
- ・団体間をつなぐ人材がない。
- ・後継者がいない。
- ・各種団体を解散している学区（地域）がある。
- ・外部の窓口など質問先が不明
- ・関係者間で共通認識ができていない。目的が共有されていない。



等

③「地域がやること」「行政がやること」「行政に見直してほしいこと・やめてもらいたいこと」についての主な意見

【地域がやること】

- ・組織をスリム化する。組織の数を少なくする。
- ・地域団体の枠の見直し。適正な大きさの組織をめざす（基準を設ける）。
- ・役員の人数の見直し。
- ・担い手・ボランティアの募集・発掘
- ・若い人が参加しやすい「ポスト」を設ける。



【行政がやること】

- ・やる気を支える経済的支援
- ・拠点（公民館・交流館）への行政の支援
- ・活動の有益性を認め、広めてほしい

【行政に見直してほしいこと・やめてもらいたいこと】

- ・町内への配布，回覧を控えてほしい（無くしたら困るが数を減らして）
- ・研修会や講演会の人集め，行事の動員の見直し
- ・明確な相談先，地域の担当窓口（たらい回しにしないで）
- ・行政からの配布物等の一本化

等



○委員長コメント（ワークショップまとめ）



- ・「協働のまちづくり」のパートナーシップは機能しているのか。
- ・これから人口が減少し、担い手不足となる中で組織のスリム化の議論になる。どこをどう「スリム化」するのが大事。
- ・価値観の多様化の中、「地域活動の必要性」を多くの人に伝えるには、仲間を増やし人に頼ることの良さをみんなで共有することが大切。特定の人だけで頑張るのではなく、もっと人に頼ろう。